学校番号	３２０

令和３年度　地理歴史科

教科	地理歴史科	科目	日本史Ａ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	新　日本史Ａ　改訂版（実教出版）						
副教材等	図説　日本史通覧（帝国書院）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

近現代の日本の歴史の展開を理解し、国際社会における日本や、現代の実社会および実生活と関連付けることで、現代日本の課題を考える。また、史料が豊富に残る近現代史の特性を活かし、様々な資料を主体的に読み取り、歴史的思考力とともに、情報社会に生きるための適切な情報活用力を培う。

2　学習の到達目標

・近現代の歴史の展開を、諸資料を読み解いて適切に理解する。
・近現代の歴史の展開から、地理的条件とともに世界における日本を位置づけ、国際社会に生きる現代人としてのあり方を意識する。
・近現代の日本の成り立ちを、現代における実生活と関連付けながら現代の諸課題に着目し、過去から現在、未来を見通す歴史的思考力を身につける。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	我が国の近現代の歴史の展開を、実社会や自らの実生活に引きつけ、現代の日本社会や、世界における日本のあり方に関心をもっている。	我が国の近現代の歴史の展開から、その意義や現代日本の課題を見いだし、国際社会における日本や自身のあり方を考え、自分の言葉で発信できる。	我が国の近現代の歴史の展開に関する諸資料から必要な情報を読み取り、歴史事実を適切に理解して、文章または図表等にまとめることができる。	我が国の近現代の歴史の展開についての基本的な内容を、地理的条件や国際環境のなかから理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	発問 授業態度 ノート	定期考査 ノート 授業プリント(資料) 発問・班発表	発問 ノート 授業プリント(資料)	定期考査 小テスト 発問

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめる。このシラバスは，あくまで予定を示したもので，状況により時間配分や課題・発表などを変更することがある。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		

1学期中間	近代国家と社会の形成	１．世界と東アジア ○欧米諸国のアジア進出という国際情勢のなかから、日本が国際社会により深く組み込まれていくことに気づく。 ○天皇を中心とする統一国家思想が生まれ、尊王攘夷運動や討幕運動などの動きを経て、明治維新に至る過程を考察する。	○			○	ａ．日本が開国し、国際社会に組み込まれることとなった転換点としてこの時代に着目し、現代社会の国際関係との繋がりに関心をもっている。 ｄ．19 世紀半ば以降の社会を国際的な視野からとらえ、その地理的条件と関連付けて理解できている。	定期考査 ノート 授業プリント 小テスト 発問
		２．近代国家の誕生 ○日本が近代国家となるための諸改革が進められ、立憲国家が成立するまでの過程を考察する。 ○藩閥政治の構造を背景として自由民権運動が生じていく過程を考察する。 ○欧米諸国以外で当時唯一の憲法となった大日本帝国憲法の意義と特色を理解する。		○	○		ｂ．日本が近代立憲国家となったことの意義をその過程を通して考察し、現代日本の政治制度や日本国憲法との比較から、現代との関連や課題を見出している。 ｃ．自由民権運動や大日本帝国憲法の成立・展開にかかわる資料を読み取り、これらに関する事実を理解して、その特徴をまとめることができる。	
		３．近代社会の形成 ○日本が近代化していく過程を、文明開化や文化交流など、社会の変容の視点から理解する。	○		○	○	ａ．現代の社会や文化に通じる文物に着目して、この時代の変革が後世に与えた大きな影響について関心をもっている。 ｃ．文字資料だけでなく、絵画や写真、現物等の資料から、この時代の共通点を見出し、まとめることができる。 ｄ．文明開化によって新たに日本に生まれた文化を、欧米文化との関連を整理しながら理解できている。	

1学期期末考査	二つの戦争と大日本帝国	1．日清戦争と日露戦争 ○日清・日露の両戦争の前後で、日本が国際的地位を向上させ、また欧米との不平等な関係を脱却しようとした政策について考察する。 ○日本が国際的地位を向上させようとするなかで、東アジア等の近隣の国々に対して、欧米と類似した外交方針をもつようになったことに気づく。 ○日本の政治構造が初期議会から変化しはじめることに気づく。	○	○	○	○	a．日清戦争と日露戦争がもたらした、中国や朝鮮、ロシアとの国際関係および国境の変化から、現代日本の国際関係との関連性について関心をもっている。 b．欧米、東アジアのそれぞれに対する、この時期の日本の対外姿勢の変化から、現代日本の国際関係の課題を見出し、自分の意見を表現することができる。 c．日本の対外姿勢の移り変わりを資料の表現等から読み取り、前後の時代と比較した内容を理解できている。 d．藩閥政府と政党勢力が対立していた初期議会の構造が、日清戦争を経て変質しはじめたことを理解している。	定期考査 ノート 授業プリント 小テスト 発問 班発表
		2．帝国形成期の社会 ○日本の産業革命を経た近代産業と資本主義の成立について、金融制度の確立や交通・通信の普及などの側面から考察する。 ○政府の農村に対する政策から、地主と小作人の関係性の変化や、都市への人口移動に着目し、農村社会および都市社会の変化、また都市において新たに生じた貧困問題や労働問題に気づく。		○	○		b．この時期の政策によってもたらされた農村と都市の変化を考察し、その問題性や課題について説明することができる。 c．日本の産業革命前後における社会の変化について、表やグラフ等を適切に読み取り、その変化の理由と結果について理解している。	

2学期中間考査	帝国とデモクラシー	1．大正デモクラシー ○教育制度の普及や経済発展による知識層の増加、また世界的なデモクラシー風潮などの視点から、日本の大正デモクラシーの展開を考察する。 ○この時期に起こった、社会主義運動や労働運動、農民運動、部落解放運動、女性解放運動などの諸運動が、大正デモクラシーの風潮や思想に影響されていることに気づく。 ○政治面では、政府と政党が提携し始めるなかから政党政治が発展することに着目し、第一次護憲運動や本格的政党内閣の成立への繋がりについて理解する。	○	○		○	a．大正デモクラシーとはどのような風潮であったのか、また人々の社会にどのような影響をもたらしたのかについて、意欲的に考えることができる。 b．政党政治の成立の意義について、近代から現代にかけての日本の歴史の流れのなかから説明することができる。 d．この時期に成長した、社会主義運動や労働運動をはじめとした様々な運動や、その背景と思想、後世に与えた影響について適切に理解している。	定期考査 ノート 授業プリント 班発表 小テスト 発問
		2．ヴェルサイユ体制とロシア革命 ○第一次世界大戦前後の国際情勢の変化と日本の関連を、経済情勢の視点から考察する。 ○日本が大陸へ進出する一方で、朝鮮や中国で民族運動が高揚したこと、また戦後に国際的な協調体制が築かれたことを、日本の対外方針と結びつけながら考察する。		○	○		b．日本が大陸進出していく背景を国内の経済・社会情勢や国際情勢のなかから検討し、後世や現代の国際関係に与えた影響を理解する。 c．日本の経済状況について、第一次世界大戦や関東大震災、恐慌を経てどのように変遷があったかを表やグラフから適切に読み取ることができる。また、外交資料の読み取りから、日本の対外姿勢や、戦後の国際的な協調体制の特徴を整理し、まとめることができる。	

2学期学期末考査	アジアの戦争と第二次世界大戦	1．日中15年戦争 ○世界的な協調体制の崩壊による国際関係の変化に着目し、国際的な全体主義の台頭のなかで日本国内でも軍部が台頭し始める流れに気づく。 ○中国との戦争が長期化し、国際連盟脱退などの国際関係の悪化、戦時体制の強化などの動きから、日本でも全体的な国家体制が成長し、次項のアジア太平洋戦争へとつながった流れを考察する。			○	○	c．世界的な協調体制の崩壊、日本における軍部や全体主義の台頭などの展開について、その変化を資料から適切に読み取り、その流れをまとめたり説明したりすることができる。 d．中国との戦争の展開を通して、アジア太平洋戦争（太平洋戦争）へとつながる歴史の流れを整理し、適切に理解することができている。	定期考査 ノート 授業プリント 小テスト 発問 班発表
		2．アジア太平洋戦争 ○世界規模で起こった第二次世界大戦の流れのなかでアジア太平洋戦争をとらえて考察する。 ○アジア太平洋戦争が、国内外の多くの人々に与えた甚大な損害から、平和で民主的な国際社会の実現に努めることの重要性に気づく。	○	○		○	a．アジア太平洋戦争（太平洋戦争）が後世に与えた影響から、現代の国際平和のあり方について関心をもっている。 b．アジア太平洋戦争を、第二次世界大戦のなかに位置付け、その歴史的意義や国際的な影響から、平和で民主的な国際社会の実現のためにできることを提案できる。 d．アジア太平洋戦争の展開にかかわる知識とともに、戦場となった地域を含むアジア各地や戦争相手国の動向について理解できている。	

学年末考査	現代日本の源流	１．戦後世界と日本 ○戦後日本の経済復興の過程について、財閥解体や農地改革、経済安定政策などの連合国の対日占領政策の視点から考察する。 ○戦後日本の復興や改革が、連合国の方針という国際的要因と、日本国民の反省という国内的要因にささえられて実現したことに気づく。 ○戦後改革の集約点としての日本国憲法の特徴と成立の意義について考察する。		○		○	ｂ．戦後日本の復興が実現した過程について、日本国内と国際的な情勢に照らし合わせながらその要因を考察し、日本社会の発展や、平和で民主的な社会の実現についての課題や目標を提案することができる。 ｄ．連合国による日本の占領政策や日本国憲法の成立について、当時の国内実情や国際情勢の影響と関連付けながら理解できている。	定期考査 ノート 授業プリント 小テスト 発問 班発表
		２．冷戦と日米安保体制 ○中華人民共和国の成立や朝鮮戦争といった国際環境の変化にともない、連合国(アメリカ)の占領政策が転換したことに気づく。 ○当時の国際環境のなかから、サンフランシスコ平和条約の調印と日米安全保障条約の締結をとらえ、連合国による占領体制の終結と日本の独立の意義について考察する。	○	○	○		ａ．戦後の国際社会の変遷を大きな流れとしてとらえ、現代の国際社会における日本のあり方について関心をもっている。 ｂ．当時の国際環境の変化のなかに日本の歴史を位置付け、それらの変化が日本に与えた影響から、現代日本の課題を考えられている。 ｃ．この時代の欧米や東アジア社会、日米関係の変化を諸資料から読み取り、その関係性を図などにまとめることができる。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。